

## デンソー山岳部 2014年 GW 山行

### ➤ 山城 北アルプス

### ➤ 日程 平成26年5月1日～5月3日(予備5/4)

### ➤ メンバー

小田 (CL)

方田 (SL)

亀山

藤田

### ◇行動記録 第1日◆ 5/1(木) 曇り時々雪 【方田 記】

#### 【歩行記録】7H20M

起床(6:00)→道の駅『白馬』出発(7:00)→榑池高原P ゴンドラリフト(8:00)→榑池ロープウェー(8:45)  
 登山開始(9:00)→天狗原(10:00)→乗鞍岳山頂(11:15)→白馬大池山荘(12:00)→撤退開始(小蓮華山手前)  
 (14:45)→白馬大池山荘(16:20)  
 (4/30前夜 本社N1 駐車場集合(17:00)→道の駅『白馬』(21:00))

～\*

榑池高原駐車場は、GWのなか日の為か閑散としており、その中でもスキー&ボードのグループはいるものの、他の登山者はいないように見える。その中で、これからのことを思いつつ気を引き締めながら準備を進める。というのも、前日のテント内で、今回最難関部となる不帰嶮に向け、お酒を愛する亀山さんが、ザックの軽量化の為、ストロング(缶チューハイ)、コップフェルの蓋なども置いてきたなどの会話があり、今回山行はいつも以上に厳しいことを改めて感じる。自身は、缶ビールは全て車内に置いておき、水、装備も必要最低限となるように、再度準備した。

ゴンドラ、ロープウェーで、いっきに1850mmまで上がる。そこで、現地案内人から、全員を集めて、雪崩や雷鳥の保護、当日の天候について注意含め説明を受ける。我々以外に10名程度いたが、登山者は2、3名だった。

まずは、天狗原までのまっすぐな直登。天狗原で最初の一本を取ると、ヘリスキー関係者の方がいて、天候が悪くなるため、その日のヘリスキーは中止になる。我々にも、天候が悪くなることに注意するよう

アドバイスをいただく。このことは、午後過ぎには的中し、我々の行動計画に大きく影響することになる。

トレースは全く見当たらず、我々の足跡を残しながら、順調に白馬乗鞍岳に登る。白馬乗鞍岳から雲に隠れながらも唐松岳・五龍岳・鹿島槍を望むことができる。白馬大池山荘を通過し、雷鳥坂にさしかかる。雪面からは「グエッ」という鳴き声が聞こえ、下半分が冬毛に換羽した雷鳥が現れる。雷鳥を見ることができるとなぜか、うれしい。この地域は保護が機能しているのか、天候が悪いためか、今回山行では毎日見ることができた。

船越の頭には、概ね予定通り到着。本日の目標である白馬山荘に向けて、足を進めるが、あたり



全体をガスが覆う。雪庇との境に出来た不気味な雪の割れ目に注意しながら進む。小蓮華山に続く雪稜は視界がクリアであれば、問題ないレベルであったのかもしれないが、風も強く、ガスが濃く、空、雪面、斜面、雪庇の境が不明瞭であり、遠近感、平衡感覚を失う感じの中では難所に思える。自分がどこにいるのかわからない感覚は、入部して初めて味わうものであり、強く緊張した。小蓮華山ピーク手前の岩場で一本取る中、本日の目標となる白馬山荘までコースタイムで2時間弱に対して、14:45。状況踏まえ、安全を優先し、撤退を判し、白馬大池山荘まで戻ることを決断。

白馬大池山荘には、先客パーティ（2名）がいた。我々がテントを張った後に、後から別パーティ（1名）が来たので、3帳のテントが張られる。その夜は2日目の目標地を唐松山荘→天狗山荘とし、下山ルートを見尾根→八方尾根と計画を修正し、アルファ米と少量の焼酎で乾杯し、雪交じりの強風が少しでも回復することを期待し就寝。

### ◇行動記録 第2日◆ 5/2（金） 晴れのち曇り 【方田 記】

【歩行記録】10H10M

起床(3:00)－出発(5:00)－小蓮華山(7:30)－白馬岳(9:40)

杓子岳(12:00)－鑓ヶ岳(13:50)－天狗山荘(15:10)

～\*

前日とは打って変わって快晴。ただし、風は強い。低気圧が入ってきているようだ。我々は、2名パーティの次に出発。朝の締まった雪はアイゼンが効いて心地よい。船越ノ頭では一気に展望が開ける。目の前に小蓮華山への稜線、その先に微かに白馬岳、鑓、唐松岳、八方尾根、南アルプスの向こうには富士山が視える。絶景だ。来てよかったと心から思える。雪煙を上げる小蓮華山への稜線に向かい、順調に前日撤退した岩場を過ぎ、小蓮華山に到着。ここで、先発した2名パーティに追いつくが、引き返すようだ。ここからは、真っ白な雪面に我々のトレースを刻んでいく。



風は相変わらず強い。対風姿勢までは必要ないが、飛ばされない意識が常に必要なレベルである。馬ノ背の雪壁にさしかかったところで、安全の為、メンバーにザイルつなげ万一の時の為に備え進む。急斜であり、足がすくむものの、ザイルがあるのとないのでは、安心感が全く違う。白馬岳山頂付近の稜線には、場所によっては、雪庇が数メートル程度張り出しており、ところどころ亀裂が入っている。前日の視界ゼロの中、小蓮華山～白馬岳まで無理して進んでいたと思うとゾットする。撤退は、ベストな判断だったと思う。白馬岳で記念撮影を行い、しばし、時間を忘れて、360度のパノラマを堪能する。白馬山荘を通過し、杓子岳へ向かう。剣、穂高・・・有名どころの眺望と自分にとっては、今春山シーズン最後と思われる雪景色の稜線歩きを満喫しながら楽しむ。杓子岳山、鑓ヶ岳と山頂付近の急斜を慎重に登る。自分の技術レベルを超えた雪面歩行のため、メンバーに指導してもらいながらなんとか山頂に立つことができた。白馬三山を縦走し、本日の宿泊場所となる天狗山荘に進む。素晴らしい天候が急変し、除々に真っ白に変わる。地図と磁石を頼りに山荘を探す中、突如現れた天狗山荘にテントを張る。真っ白な世界の中で、自分の位置を把握するために、自身に



はまだまだ欠けている読図力が本当に重要だと改めて感じる。テントをはると天候は回復。明日はいよいよ今回の最重要箇所である不帰嶮に臨む為、アルファ米と少量の焼酎で乾杯し、天候が維持されることを期待し就寝。



◇行動記録 第3日◆ 5/3（土） 晴れのち曇り 【小田 記】

【歩行記録】11H00M

起床(3:00)－出発(5:00)－天狗ノ頭(06:00)－天狗ノ大下り(07:00)－不帰ノ嶮・一峰(08:00)～二峰北峰, 撤退(9:45)－天狗ノ頭(12:20)－鑓温泉への分岐(14:00)－鑓温泉手前(17:00)

～\*

この日の天候は朝は晴れ。最高のコンディションの中スタートを切った。天狗の頭に到着すると、今回の核心部である不帰嶮とその先の八方尾根が良く見えた。天狗の頭からだと不帰嶮はそんなには雪がついていないように見える。とにかく、近くまで行ってから状況確認をしようと思われ、先に進んだ。雪をまとった剣岳もきれいに見え、その荘厳な頂にいつの日にか挑戦してみたいものだな、などと考えながら、天狗の大下りを進んでいく。不帰嶮・一峰はほぼ夏道が出ていたため、そこを進み、難なく通過した。いよいよ第二峰・北峰に向かう。二峰の手前の鞍部でザイルを出し、メンバー間でこれからの行動を確認する。二峰は取り付きから岩場、鎖の連続である。幸い、途中までは鎖が出ていたため、問題はなかった。空中はしごを越えて信州側の斜面に出てからが問題であった。岩の急斜面がはるか下まで続いているところ、ほぼ岩壁と言ってもよいと思うが、そこに雪が張り付くような形で乗っており、進むためにはその雪の上を歩いていくしかない。亀山さんが様子見のため、まずトップで出る。自分は確保にまわる。4、5歩進んだところで亀山さんから「これは無理かな」と聞こえてくる。どうやら岩と雪の間はかなり雪が溶けてぽっかり隙間が空いている。ならば雪面を歩こうとすると、雪そのものがかなりくさっているため、深く入り込んでしまう。もしその雪が落ちたらはるか下まで一緒に落下していくことになる。亀山さんが戻ってきて、ちょっと見て来いと言ったので、自分も確保してもらい、様子を伺いに行く。岩肌を使える部分はそこに乗っかって進み、そこから雪に乗り換えるところで、ピッケルで雪面をつつくとサクッと入ってしまう。かなり柔らかい。流石に次の一歩が踏み出せない。これは無理だな。と判断しあきらめる。残念だがここで撤退を決めた。このまま来たルートを引き返し、鑓温泉経由で下ることにした。時間的には今日の下山はぎりぎりかなと考えていた。しかし、ここから天気が急激に悪化して視界がほとんどなくなってしまったため、ルート確認に時間を要し、この日の下山は無理であった。夏道が出ている鑓温泉への分岐までは視界が悪くても何とかあったが、分岐からのルートが広い尾根になっており、ルートがわか



